

京大國史關係彙報

讀史會見學

五月十五日

近江八幡方面。柴田助教以下廿數名。八幡町役場（八幡町共有文書）、比牟禮八幡宮、大島奥津島神社（以上所藏古文書）、長命寺（佛像・繪画・古文書）を見學。

十二月四日

宇治田原禪定寺及び白川白山神社・地蔵院を見學。柴田助教以下約二十名。

國史學會大會 六月六日（日）

文學部第一教室に於て開催  
國史學研究の傾向について

藤 直幹氏

明月記を中心としてみた公式の通婚について

鎌倉時代に於ける大山庄の生活について

山本 舛江氏  
宮川 滿氏

近江八幡町の株中間について

飯田 修二氏

寛文期の儒學

三吉 希氏

寶誌和尚像について

毛利 久氏

中世的世界觀の一考察

田中 稔氏

切支丹史研究上の一二の問題

柴田 實氏

讀史會大會 十二月五日（日）

文學部第一教室に於て次の研究發表を、

第一陳列室に於ては史料展覧を行つた。

明治の歴史學上開會の辭に代へて

柴田 實氏  
高尾 一彦氏

中世社會經濟史の問題  
日本文化に於ける生あるもの

北陸門徒の關東移民  
五來 重氏

共同労働の様式的展開  
平山敏治郎氏

古代史研究私見  
山根徳太郎氏

開會の辭  
三品 彰英氏

京大考古學關係彙報

日本考古展開催

考古學教室エキステンションの一つとして一般社會人の考古學的知識を高める意味で五月一日から四十日間奈良國立博物館に於て日本考古展を開催した。新石器時代から古墳時代にわたる著明な遺跡の一括出土遺物を中心とし、多數の出土品を全國から集めて、具体的に考古學的知識を附與するのに大いに貢獻する所があつた。

對馬の考古學的調査

東亞考古學會の對馬調査が京大を中心にして、八月十一日より約一ヶ月半にわたつて行はれた。梅原教授を隊長とし水野講師以下教室員四名が之に参加、多大の役果を擧げた。主なる遺蹟としては志多留に於ける繩文式貝塚、泉の穗稻併用墳、賀谷の洞窟遺蹟等があり、その他各地の箱式棺、積石塚、横穴式石室墳、銅

銚劍關係の調査から、歴史時代關係に至るまで、殆ど凡ゆる分野にわたり、地域的調査の具体的成果を擧げたのである。その結果對には太古から我國の北九州文化圏内にあり、日鮮文化交流上仲介的特色は全くなく、單なる寄港地的意義しか有しなかつたと判る。

その他の發掘調査  
二三年度に於ける小林助手以下教室員による調査が次の如くなされた。

1、伊賀國名賀郡依那古村石山古墳に於ける埴輪出土狀態の調査 八月三日より二週間

2、信濃國下高井郡長丘村二四墳の發掘調査 九月八日より十五日間

3、信濃國下高井郡長丘村栗林彌生式遺蹟堅穴の發掘調査 十一月四日より十八日間

4、鹿兒島縣櫻島武總文式具塚發掘調査 二十四年一月四日より三日間

○考古學談話會 島田貞彦氏追悼記念  
もと考古學教室の助手として長い間教室の仕事を下さつた島田貞彦氏が、

昭和二十二年十二月二十六日 旅順の舊陸軍病院に於て死去せられたのを追悼する意をかねて考古學談話會を十二月十一日に開いた。建築學教室勤務の令弟に御出席を願ひ宮崎、田村、水野、柴田諸先生の思ひ出話あり、ついで教室員諸氏による次の如き調査報告があつた。

- 一、對馬旅行談 松田 一政
- 一、信州栗林の彌生式遺蹟 坪井 清足
- 一、信州長丘村古墳の調査 横山 浩一
- 一、伊賀石山古墳の發掘 辻村 恵治
- 一、志賀の發掘 近藤 義郎

史學研究會彙報

例會 十月三十日 於京都大學工學部  
會議室「正倉院御物について」  
小野 勝年氏

大會 菊蕪の十一月十四日、洛東東福寺に於て行はれ、午前十時より寺寶の見學、午后一時より同寺廣間に於て、公開講演會、新會則による評議員の改選が行はれた。來會者百餘名

「講演會」

左の兩氏の研究發表があつた。  
「ヘロドトスの地理的世界に就て」  
京大助教 織田 武雄氏

「東の莊園と西の莊園」  
京大助教 寶月 圭吾氏

「評議員の改選」

新會則に基き改選の結果、左の十五氏が選出せられた。

- 原 隨園 井上智勇 村田數之亮
  - 那波利貞 藤 直幹 水野清一
  - 梅原末治 三品彰英 赤松俊秀
  - 宮崎市定 柴田 實 織田武雄
  - 田村實造 具塚茂樹 藤岡謙二郎
- 尚ほ、二十名以上の本會會員を有する左記の各校より夫々左の諸氏が評議員に選出せられた。

- 大谷大學 野上 俊靜
- 鹿谷大學 小笠原宣秀
- 奈良女高師 梶子 二郎
- (倉奈良師範)
- 靜岡師範 柴山 英一(妥嶋)

京大地理學關係彙報

地理學談話會大會 十一月十五日 午  
前九時より 出席者七十三名

一、開會の辭 吉田 敬市

二、環濱名湖の自然と文化の特色 細井 淳一

三、京都周邊山地の地形の二、三につ  
いて 水山 高幸

四、ニジェリアの市場など 岩田 慶治

五、アンドロニコスの風塔 水津 一朗

六、越中平野の集落研究 林 正己

七、交通立地に關する事柄 春日 茂男

八、ヨーロッパ人口の剩餘論 川喜田二郎

九、現代國家の地理的構造 船越 謙策

十、海圖利用上の一問題 川上喜代四

十一、清代河南省の驛と鋪 河野 通博

十二、氣候馴化論 和田 俊二

十三、農業地理に關する一、二の問題

十四、黃島の先史遺跡 辻田右左男  
藤岡謙二郎

十五、日本の貿易と自然資源 松井 武敏

十六、風土についてその自然科学的理解 速水頌一郎

十七、閉會の辭 藤岡謙二郎

終了後、進々堂にて懇親會を開き、出  
席者五十五名。

人文地理學會

本年三月從來の西日本地理學會が發展  
的解消をとげて誕生したもので、全國同  
學の士に呼びかけてゐる。事務所を本學  
地理學教室に置き機關誌として「人文地  
理」を季刊してゐる。既に三冊を出し、  
會員數約四百名。

日本地理學會

四月三十日、五月一日の兩日、東大に  
於て本年度大會を會催。本學關係の研究  
發表は次の通りである。

山城盆地南部の環濠集落 藤岡謙二郎

都市圏に關する一考察 織田 武雄

古地圖に現れた大西洋 水津 一期

清代における湖北省の洪水

青島市與亞陸具線の一考察

日本灌漑水利慣行及水利問題の地域的  
構造

喜多村俊夫

京大西洋史關係叢報

讀書會大會

十一月三日、午前十時より、百万遍了  
蓮寺にて、故岡島誠太郎・笹川新一氏等  
の追悼會あり。午後一時より、講演會に  
移り、原教授より挨拶に代へ、「精神史の  
課題」と題し講演あり、終つて左の研究  
發表があつた。

一、ニーチエとブルツクハルト 會田 雄次氏

一、歴史的空間 西井 克己氏

一、ドーリア文化について 村田數之亮氏

終了後、茶話會に移り、九大の小林榮  
三郎教授、東大の杉勇氏並びに諸先輩の

出席あり。

### 京大東洋史關係彙報

#### 東洋史談話會

十一月七日午前九時より東方文化研究所講堂に於て、二十三年度大會を開き、左の講演があつた。

「清朝初期礦山業の一考察」

里井彦七郎氏

「宋代流民と生産關係」大崎富士夫氏

「三藩の亂と朝鮮」神田 信夫氏

「中國古代帝國成立に關する一考察」

西嶋 定生氏

「明代の申明亭」

小畑 龍夫氏

「北信掘錢談」

日比野丈夫氏

「嶺河の戦について」羽田 明氏

「匈奴は如何なる人種に屬するか」

内田 吟風氏

「井田思想に現はれた近隣關係の理法」

清水 盛光氏

「中國古代封建制度の起源」

貝塚 茂樹氏

「私の中國史研究法」

小竹 文夫氏

支那學會

五月二十二日 午後一時より、京大文學部第八教室に於て、故狩野直喜博士追悼講演會が行はれた。講師並びに題目左の通り。

「狩野先生の方法」吉川幸次郎氏

「歴史家としての狩野先生」

宮崎 市定氏

「狩野先生と語學」

倉石武四郎氏

「狩野先生の學問」

小島 祐馬氏

「閉會の辭」

那波 利貞氏

#### 龍谷大學史學會彙報

#### 史學研究會例會

史學研究會改組後第二回の例會として、十月八日(土)龍大圖書館講堂にて、「文化圈の問題」を主題とした左の通りの研究發表があつた。

一 アフリカ文化圈の問題

岩田 慶治氏

一、アジアポリグロッタについて

石濱純太郎氏

#### 石濱先生還暦記念史學大會

十一月十五日(月)午後一時より圖書館講堂にて閉會。記念講演は左の通りであつた。

一、東國眞宗門徒の動向と本願寺の成立

立 龍谷大學教授 宮崎 圓道氏

一、中國祇教史上の諸問題

日本大學教授 石田幹之助氏

右終つて本願寺飛雲閣にて祝賀茶話會を催す。東方文化研究所の羽田所長はじめ、各研究員の諸氏、宮崎(京大)教授、

神田(阪大)教授、野上谷大教授、澤大

阪外専)教授、その他十數氏學外より來

會。龍大側は森川學長、前田學監、糸氏

名譽教授、魚澄講師をはじめ石濱先生に

款を受けた現役の教授、講師、學生約五

十餘名參列。

#### 第三十四回大藏會

京都佛教各宗學校連合會主催の大藏會

展觀が十一月二十、二十一兩日に亘つて

陳列室にて行はれた。

展觀物に就いて、夫々神田喜一郎氏は「鑛眞傳管見」忝氏祐祥氏は「唐招提寺古經に就いて」と題し講演を行つた。

### 史學會近況

龍大においては國史、東洋史、佛敎史各部會毎に毎月一回の例會及び廻覽式月報を發行してゐる。機關誌「龍谷史壇」は二四年春に複刊第一號を出版の予定。

### 大谷大學史學科彙報

○昭和廿三年十月廿八、九日、三品彰英敎授引卒の下に高野山及び勸進寺を見學。

○十一月一日午後三時より大谷大學にて中國文化同好會第十六回例會を行つた。

大無量壽經の漢譯について

野上 俊靜氏

○十二月十一日午後一時より大谷大學にて左の如き史學大會を開いた。

一、奈良朝時代の戸籍について

一、中世禪林の寺僧生活について

赤松 俊秀氏  
柳山 淳氏

○尙長らく中絶されてゐた國史、國文學、東洋史、支那文學の綜合研究機關たる史文會が復活され左の如き例會を行つた。

十一月六日午後三時

漢字の古訓について 神田喜一郎氏

十二月六日午後三時

神武の建國について 三品 彰英氏

### 次 號 予 告

フランス革命とキリスト敎

.....豊 田 堯

近代精神の系譜

— 朱子學の世界觀と其の歴史的位置 —

.....石 田 眞

清代の械闘について

.....北 村 敬 直

學會展望・學界通信・新刊紹介

### 編 輯 後 記

新發行所秋田屋書店の京都出張所閉鎖に伴ひ、印刷の運びになつてゐた本號の發行も一時停頓の止むなきに至りましたが、時流に附せず飽く迄純學術雜誌の傳統を保持し同時に古き革袋に新らしき酒を盛るの方針を一貫すべく、本會の自費出版を計畫し、漸く本號を會員各位の手許にお送り出来る運びになりました。

外的な事情により發行が遅滞し會員諸氏の御照會を受けしことも再三でありましたが、本會の一貫した方針と學界誌出版への熱意は些も止むものではないことを了とせられ、今後の御鞭撻と協力を重ねて懇請する次第であります。

尙ほ、次號よりは、大坂「教育タイムス社」が出版の勞を引受けられ、年四回の發行の主旨も着々實行に移さるる運びとなり、來年一月發行の次號は、近世史の諸問題、四月號は古代都市國家の問題を夫々中心とし編輯致して居ります。御期待下さい。(佐藤)